

リレー作文の作品例(第二次・2時分の学習)

リレー作文の作品を紹介する。ここでは、子どもたちが読み返した際に、「自分の想像作文を書くときに役立つ」としてサイドラインを引いていた部分は色付けして示す。

このサイドラインを引く作業は、第2次・2時分における学習である。

作品 1

あっ、太陽が昇ってきた。朝六時か。今日はどんな人がぼくの周りにやってくるんだろう。

あっ、竹中君だ。いつもがんばっているな。

今日で十三回目だ。三日ぼうずの竹中君がよくここまでがんばってきたな。いつもあきらめていたのに・・・。だいぶ最初のころより体力がついてきたなあ。竹中君の目標は、六才の子どもの運動会の親子リレーのためだったなあ。そのためにここまでやってきたんだ。すごく子ども思いの親だなあ・・・。運動会、子どものために一位を取ってやろうなんて・・・。そう思っている間にあと五分だ。

あっ、竹中君が見えた。すごく疲れているようだ。もう会社の時間だから、帰るのかな。えっ、ぼくの方に近づいてくる。ぼくの上に座るの？あっ、重い。会社だいじょうぶなの？

いいから、早くおりてよ、会社におくれちゃうよ。あっ、立ち上がった。会社に行くんだな。

えっ、また走り出した。なんで。今日は会社のはず。あっ、そういえば今日は日曜日だったんだ。あとどれくらい走るんだろう。疲れているはずなのに。そうか、来週が運動会か・・・。ラストスパートだね。がんばれ竹中君。

今日、次はどんな人がぼくの上に座るんだろう。

話が始まるきっかけとして、具体的な登場人物の名前を付けること、その人物設定をすることなどをとらえている。



ベンチを擬人化した表現を指摘している。

作品 2

時間は午後三時になりました。この時間、公園は散歩のコースになっているのです。

今日も高岡たけしさんは、ハトに大豆をあげにやってきました。

今日は、孫もいっしょに来ています。けれど、なかなかハトが来ません。

孫たちは大豆を食べながら「まだかなあ。ハトさん。」と言って待っていました。

そのとき、ハトが来ると、孫が大豆を食べ過ぎていてハトにあげる大豆がなくなってしまいました。たけしさんはあわてて、コンビニに、大豆を買いに行ったら、売り切れでした。

たけしさんが、しょんぼりして公園に帰ってくると、ベンチの上には、大豆が・・・。

「なぜ、大豆がベンチに？」

おじいさんは、ふしぎに思いながらベンチに座り、孫たちといっしょに大豆をハトにあげました。たけしさんは、ふしぎに思いながら、三時三十分に帰りました。

公園の状況設定を参考にしようとしている。

登場人物紹介、状況紹介

孫たちの様子を会話文を使って表現することのよさ、分かりやすさに着目している。

様子を表す「しょんぼり」という表現。人物のキャラクターが分かる表現として取り上げようとしている。

